

整備と放課後児童支援員などの職員確保が課題である。このため、公共施設の有効活用や、継続的、

安定的運営ができる社会福祉法人等への委託、有資格者の発掘等、職員の確保に取り組んでいく。

公共施設等サービス再構築 基本方針は

問 公共施設等再構築の推進は。

答 公共施設サービス再構築検討委員会において全市的視点で施

設の効率的な運営に取り組んでいる。平成28年度中には固定資産台帳を整備し、取得価格、耐用年数等の資産の情報も一元的に把握できるようにすることから、より一層公共施設等の適切な管理および有効活用に取り組んでいく。

福山版ネウボラは

問 ①利用者支援事業との整合は。

②相談員の配置は。

答 ①利用者支援事業は、子育て家庭のニーズを把握し、地域の子育て資源を円滑に利用できるよう助言、指導を行うもので、さらに充実するため、福山版ネウボラ

として再編する。
②妊娠期から学童期まで切れ目のない相談支援をワンストップで行うため、身近な相談窓口を保育所6所、拠点支所4所、すこやかセンター、エフピコRiMに開設し専門性を持った相談員を配置する。また「ネウボラ相談員養成プログラム」を構築し、全国ナンバーワンの相談員の養成をめざす。

ものづくり福の耳プロジェクト の取り組みは

問 ものづくり産業における人材の確保、育成の今後の支援は。

答 技術・作業系の人材確保を経営課題に挙げる企業が多いため

福山大学、ポリテクカレッジ福山福山工業高校等の学生・生徒に、就職先の選定理由や希望する就職場所等について、また、企業には採用で重視する事項等についてアンケートを実施している。今後、調査結果を踏まえ、より効果的な人材確保の支援に取り組んでいく。

誠友会



稲葉誠一郎

市長の政治姿勢は

問 ①市長に就任してからの半年間を振り返り、改めてふるさと福山への率直な思いは。
②次なる100年に向けて、市長が思い描く「未来の福山」への期待は。

答 ①ふるさと福山が、時代の

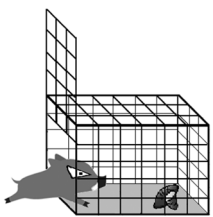
有害鳥獣の実態調査と対策は

問 ①有害鳥獣による被害への対策は。
②電子機器の開発に対する支援は。

答 ①有害鳥獣による被害については、農家の営農意欲を減退させるとともに市民の安心・安全の見地からも重要な課題であると認識している。農家の思いを共有し引き続き、効果的な被害防止に向け、積極的に取り組む。

流れに漂うだけの一都市に甘んずることなく、活力と魅力に満ちた輝く都市でありたいという思いを強く持ち、政策判断に当たってはスピード感を重視してきた。
②本市には個性豊かな歴史・文化オンリーワン・ナンバーワン企業の集積、琴や下駄、備後絣などの伝統産業など、福山で育まれてきた多くの強みがある。これらの強みをさらに磨き上げ、発信することで福山の魅力が高まり、ヒト・モノ・情報などが集まる活力と魅力あふれる都市へと成長していくことを確信している。

②有害鳥獣対策に関する機器は、捕獲の効率化や労力の軽減を図る上で有効であると考えられる。本市には多様なものづくり企業が集積しており、新たな商品開発につながるよう、現場の実態などを企業に情報提供すると同時に、国等の研究開発にかかる補助制度の活用を促していく。



*ものづくり福の耳プロジェクト: 2016年(平成28年)11月からスタートした福山市職員による市内事業者(主に製造業)への訪問活動のこと。各事業者が抱える経営課題やニーズ等を聴取して、より効果的な産業施策等に反映することが主目的。